

## X 成果と課題

書く活動や表現する場を工夫することによって主体的に取り組み、学び合う子どもたちの姿を目指して研修に取り組んだ。

その結果、次のようなことが明らかになった。

- ・ 子どもが学び合うためには、学び合う必然性が必要になる。
- ・ その必然性が生まれるためには、子ども全員が同じ課題をもって授業に取り組めるようにすることが大切になってくる。
- ・ 子どもの課題にするためには、発問、問い返し、提示の工夫などの教師の授業構成力が必要になってくる。
- ・ ゆさぶりの発問が、学び合う子どもたちを育成するために大切である。
- ・ 学び合う子どもたちの姿の具現を目指すことで、授業に主体的に取り組む子どもが増えてきている。
- ・ 伝え合うことの内容を深める手立てが、まだ明らかになっていない。
- ・ ペアやグループでの学び合いを全体のものにしていくことが研究されていない。
- ・ 子どもの言葉を拾っていくことがまだ十分ではない。

また、毎月の Web 配信集計システムの診断問題（以下 Web 配信診断問題）の結果において、25 年度まで県平均を上回ることができなかったのに対して、26 年度は県平均を上回るが増えてきている。全国学力学習状況調査や学習指導改善調査においても、25 年度と比較して、26 年度は数値が上がってきており、確かな学力が身に付きつつある様子が見えてくる。

しかし、日頃の授業での子どもたちは、自分から勉強しようという姿勢は弱く、与えられた問題を考えているという主体性に欠ける様子が見られる。また、低学年では伝え合うということも育っていない様子が見られたり、中高学年では子ども同士で課題に対する話し合いができない様子も見られたりする。今後改善すべき課題としたい。